

オークランド(ニュージーランド) 個展旅日記①

西悟

オークランド国際空港に降り立ち、冷たい風が肌を包み込んだ時、あらためてここは南半球、日本とは真逆の季節なんだと実感した。そして七年以上も前のニュージーランドからのALIT(英語助手)との出会いが、今に繋がっていることに不思議な思いに浸ってしまった。

シヨン・マクドネル、ALITとして高知北高校に赴任し英語助手の仕事のかたわら、本格的なアーティストを目指し、絵を描き続けていた。彼はニュージーランドで超エリート大学、オークランド大学の美術学部を卒業し、制作活動も続けていた。そして彼自身の創作活動に新しい息吹を吹き込む

ために海外の文化に触れることは必要不可欠だと感じ、日本にやってきたのだった。

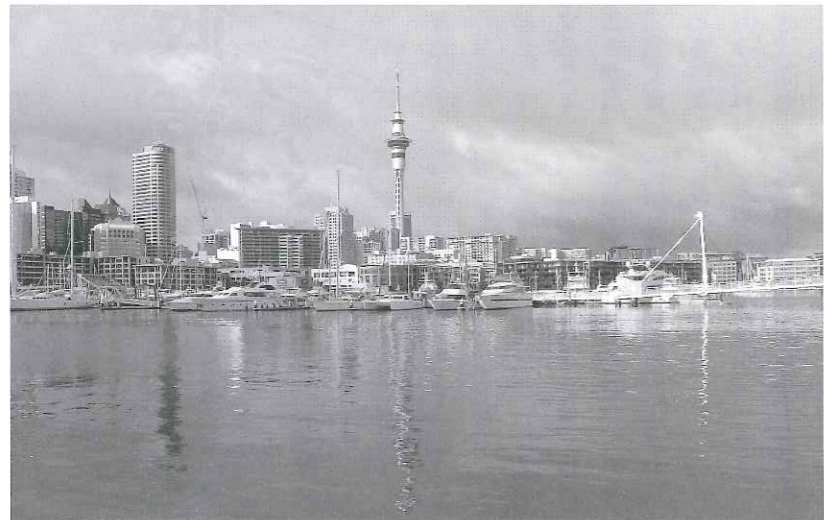
当時、私は現代絵画のグループ展「エッジ展」を企画しており、新進アーティストを探していた。ちょうどその時、高知北高校で美術を教えていた先生からシヨンのことを聞かされたのだった。さっそく彼と会い、制作途中の作品を見ながら彼と話すなかで、シヨンはかなり高いレベルの芸術性を持ったアーティストで、素晴らしい作品群を創造していることを感じ取ったのだった。そして彼に「エッジ展」へ参加の依頼をしたのが、今回オークランド、ニュージーランドで初めて個展をする最

初のきっかけとなったのである。

オークランドはニュージーランド最大の都市で、人口は一三〇万人。日本というと神戸のような港町といつてもいいかもしれない。ニュージーランドではビジネスの中心都市であり、この国の主要企業はここに集まっている。そしてニュージーランドの文化発信もここがメインとなっていて、当然優れたアーティストもこの場所に集まってきたのだ。またニュージーランドでは最優秀大学と言われる学生数四万人を数えるオークランド大学があり、そういう意味でもオークランドはニュージーランドの経済、文化、教育の中心と言われる大都市といつてもいいかもしれ

そのほかに貸しギャラリーといってアーティストがギャラリー空間を借りて展覧会をするシステムもあるが、欧米では貸しギャラリータイプはほとんど存在しない。ギャラリーにはディレクター(責任者)、キュレーター(学芸員)というスタッフがディレクター、コミュニティ共々ギャラリーを運営していく。ディレクターは美術作品を売ること、ギャラリー経営を成り立たせるのだが、コミュニティは行政、寄付金などを得て、芸術文化、芸術教育の発展として若手アーティストの育成も担っているのが普通である。ニュージーランドのギャラリーも欧米と同様、こういったシステムを踏襲している。

ノースアートギャラリーのディレクター、ウエンディと面識があり、二年ほど前、私にここで作品を発表できれば良いねとメールが送られてきたのが今回の個展のきっかけとなったのだ。当時、私は漠然と展覧会が実現できれば良いかなという、ほとんど期待しない思いで作品のデータをノースアートギャラリーに送ったのを覚えている。ところが返事は一週間もしないうちに「展覧会をやりましょう」とウエンディから驚きのゴサインが返ってきたのだった。それからウエンディと頻りに連絡のやりとりを行い、準備期間として二年、そして土佐塾中高校で美術講師をしていることなども照らし合わせ、二〇一五年夏休み期間中の八月にノースアートギャラリーでSEI GO(西悟)展開催を決定したのであった。まだ一度も訪れたこ



フェリーから見たオークランド市

とのない国のギャラリーで個展開催ということに、一抹の不安も確かにあったのは事実である。私の作品が受け入れられるのか、ギャラリーの空間にフィットするのかわからない不安要素がこみ上げてきた。とりあえずウエンディにギャラリーの見取り図を送ってもらい、そ

れない。私の個展会場となったのが、このオークランド郊外のノースショアという地区にあるノースアートギャラリーである。

ギャラリーには大まかに言うと二種類あって、ひとつは商業ベイスのディーラーギャラリー。もうひとつは非営利のコミュニティギャラリーに分かれる。日本では



ノースアートギャラリー

れを見ながら実際の空間、雰囲気想像しながら出品作品の選定を進めていった。この作業にほぼ半年間を費やしたのだった。それでも心の中にくすぶる不安感はぬぐい去られず、ウエンディに作品画像を送りつつ、意見を何回も求めたのだった。ウエンディからはいつも「素晴らしい作品ですね! 展示するのが楽しみです!」と返事がくる。私は「こちらの不安感も少しは察してくれ!」と心の中で叫びつつ、作品を褒められることに何故か次第に安心感も大きくなってきたことを覚えている。そして最後には「現地に行けばどうにかなるさ」という身勝手に楽天的な思いに落ち着いてしまったのだった。

②へ続く

にし 西悟
画家・土佐塾中高校美術専任講師